

# 令和2年度 先駆的空き家対策東京モデル支援事業（チャレンジ型）

区市町村による空き家対策の横展開を図ることを目的として、標記事業により先駆的かつ高度なノウハウを要し、共通課題の解決を図る空き家対策事業

◆補助対象：事業に要する費用（施設整備等ハード事業を除く） ◆補助率：10/10 ◆補助限度額：10,000千円／区市町村

## 1 調布市

9,603千円

### SNSを活用した空き家予備軍の可視化プロジェクト

SNSを活用し、多世代の活用を想定した「相談」と「学び」のメニューにより構成される空き家予防啓発アプリを官民連携で開発し、ウィズコロナ時代を見据えた新たなオンライン事業の構築を行う。

#### 事業の成果：

- ・調布市空き家LINE公式アカウント「スマイのミライ教えてナビ！」の構築。
- ・市民参加型・多世代参加型事業の考案。  
※ワークショップ「空き家っカソン」



#### 今後の展開：

- ・アカウントコンテンツの充実と相談事業との連携強化
- ・広域連携によるツール活用の可能性検討
- ・市民参加型事業の継続実施による意識啓発など。

### 【利用手順の流れ】

◆友だち登録時の簡易アンケートで、基本情報（属性、課題、ニーズ等）を取得。個人情報（本人同意確認後、個人を特定しない範囲で、調査及び分析を行い、アプリの機能更新、セグメント配信等で使い勝手を進化させ、利便性向上を図る。



### 【主な構成（「相談」と「学び」）】



# 令和2年度 先駆的空き家対策東京モデル支援事業（チャレンジ型）

## 市民参加型事業の考案 1：

- ・多くの空き家に課題を抱える可能性のある（空き家予備軍）を想定した市民LINEアカウント構築に関与できる「空き家っカソン」イベントの考案・試行実施（アイデアソン・ハッカソン）
  - ⇒ 2日間を通じて、空き家の課題から解決手法、解決プランを考案する多世代参加型事業。
  - ・11月はアイデアのワークショップを主体としたSDGsをテーマで開催。
  - ・3月は、LINEアカウントの機能実装の体験ワークショップ。画面構築を目指したプログラミングイベント。

## 市民参加型事業の考案 2：

- ・空き家の課題をSDGs目標11「住み続けられるまちを」をテーマに、将来を担う若者にまちづくりの観点から空き家を考え、どのように同世代と共有していくのかを考える事業を考案・実施。
- ・市内中高一貫校と連携した年間事業として実施。
- ・空き家エリアリノベーション事業で連携する大学、事業者と共に、コンテンツ連携として実施。

## 市民参加・多世代参加型 ワークショップ「空き家っカソン」のチラシとイベントの様子



## 市内連携学校での 「プラン発表会」の様子

